

# まえがき

2017年3月に、新しい学習指導要領が告示されました。それに伴い、2018年度から2019年度は移行措置期間として、各学年の指導について、全部または一部について新学習指導要領による教育課程が実施されます。

今回の改訂では、AI（人工知能）の飛躍的進化などにより社会構造や雇用環境が劇的に変化することが予想される中で、実社会・実生活の高度な問題解決に必要な「資質・能力」の育成が大きく掲げられています。一方で、先生方の世代交代が進んでおり、これまでの教育に関わる様々な経験や知見をどのように継承していくかという課題にも対応するため、その内容も構造も、大きく様変わりした改訂となりました。

新学習指導要領は、2018年から先行実施、そして2020年からは完全実施となります。指導にあたっては、新学習指導要領に示されている内容を読み込んで適切に理解し、その趣旨を生かした授業を展開することが必要です。

そこで本冊子は、新学習指導要領の改訂にあたって新しく入った項目を使った題材例を7つ掲載しています。学習指導計画や題材計画では学習活動を行う上で、どんな教材・教具が使用されるか一目でわかるよう示しています。


本冊子が「資質・能力」の育成のための学習活動が展開できる学習題材の設定の参考になれば幸いです。

2018年3月

編著者一同

# 年間指導計画案 3 学期制標準案

\* 題材名は現行教科書に対応。

	4 月	5 月	6 月	7 月	9 月	10 月
第5学年	【1 学期】 24 時間				【2 学期】 20 ～ 24 時間	
	<p>家庭科の学習—2 年間を見通して— A(1) 1 時間</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの自分の成長を見つめ、見直しをもって学習に取り組もうとする。</li> </ul> <p>1 わたしと家族の生活 A(2) 1 時間</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分と家族の1日の生活をふり返ることで、家庭生活に関心を持ち、家庭生活や家族の大切さに気付き、協力しようとする。</li> </ul> <p>2 はじめてみよう クッキング B(2)C(2) 8 時間</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>調理に関心を持ち、簡単な調理をしようとする。</li> <li>用具や食品の安全な取り扱い方やゆで方がわかる。</li> <li>材料や目的に応じてゆでる調理ができる。</li> </ul> <p>①クッキング はじめの一步 [2 時間]</p> <p>②ゆでてみよう [3 時間]</p> <p>新学習指導要領〈題材指定〉 野菜をゆでる調理</p> <p>③野菜をゆでておいしく食べよう [3 時間]</p> <p>3 はじめてみよう ソーイング B(4)(5)C(2) 8 時間</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>手縫いや製作に関心を持ち、なみ縫い、返し縫い、かがり縫いなどやボタンつけ、ぬい取りができる。</li> <li>製作に必要な用具の安全な使い方がわかり、作品の形や縫い方を工夫して小物の製作ができる。</li> </ul> <p>①針と糸にチャレンジ [4 時間]</p> <p>②楽しい小物づくり [4 時間]</p>		<p>4 かたづけよう 身の回りの物 B(6)C(2) 4 時間</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>身の回りの整理・整頓に関心を持ち、気持ちよく過ごそうとしている。</li> <li>整理・整頓の仕方がわかり、工夫できる。</li> <li>ごみの始末や不用品の活用の仕方を工夫し、環境を考えた生活の仕方がわかる。</li> </ul> <p>①身の回りに目を向けよう [1 時間]</p> <p>②整理・整頓をくふうしよう [2 時間]</p> <p>③物を生かすくふうをしよう [1 時間]</p> <p>5 やってみよう 家庭の仕事 A(2)C(2) 2 時間</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>家庭生活に関心を持ち、家族の一員として、自分でできる家庭の仕事を分担し、工夫して実行することができる。</li> </ul> <p>①できることを増やそう [1 時間]</p> <p>②家族に協力して仕事をしよう [1 時間]</p> <p>チャレンジコーナー</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学習したことを家庭生活に生かす。</li> </ul>		<p>6 わくわくミシン B(4)(5) 10 時間</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ミシン縫いに関心を持ち、安全に操作し、直線縫いを主としたミシン縫いができる。</li> <li>布を用いて製作する物を考え、製作計画を立てて製作し、活用しようとする。</li> </ul> <p>①ミシンぬいにチャレンジ [5 時間]</p> <p>②計画を立てて、つくってみよう [5 時間]</p>	
 <p>夏期休暇を活用する場合</p>						

■「新学習指導要領 内容A(4) 家族・家庭生活についての課題と実践」[2 時間] この年間指導計画案の場合、課題の設定・計画・評価の時間に2 時間想定で、

	【1 学期】 23 時間		【2 学期】 22 時間	
第6学年	<p>1 わたしの生活時間 A(2) 2 時間</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生活時間を見直し、朝の生活の仕方や、家族との触れ合いの時間を工夫することができるようにする。</li> </ul> <p>①生活時間を調べよう [1 時間]</p> <p>②生活時間をくふうしよう [1 時間]</p>		<p>3 クリーン大作戦 B(6)C(2) 5 時間</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>住まい方に関心を持ち、工夫してそうじができる。</li> </ul> <p>①そうじのしかたを見直そう [2 時間]</p> <p>②そうじのしかたをくふうしよう [3 時間]</p>	
	<p>2 いためてつくろう 朝食のおかず B(1)B(2)8 時間</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>朝食をとることの大切さに気付き、朝食に合う簡単なおかずを考え計画を立てることができる。</li> <li>いためる調理がわかり、簡単なおかずをつくることができる。</li> </ul> <p>①朝食を考えよう [3 時間]</p> <p>②いためてみよう [5 時間]</p>		<p>4 暑い季節を快適に B(4)(6)C(2) 8 時間</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>すずしい住まい方や着方に関心を持ち、快適に過ごすための工夫ができる。</li> <li>すずしく住まう方法を工夫できる。</li> <li>すずしい衣服の着方や手入れに関心を持ち、快適に過ごすための工夫ができる。</li> <li>洗濯の必要性がわかり、洗濯を工夫して行うことができる。</li> <li>生活の中の音に関心を持ち、快適に過ごすための工夫ができる。</li> </ul> <p>①すずしい住まい方をくふうしよう [2 時間]</p> <p>新学習指導要領 音とわたしたちの生活 [1 時間]</p> <p>②すずしい着方をくふうしよう [1 時間]</p> <p>③洗たくをしてみよう [4 時間]</p> <p>チャレンジコーナー</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学習したことを家庭生活に生かす。</li> </ul>	
		<p>5 楽しく ソーイング B(4)(5) 10 時間</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>布を用いた生活を豊かにする物に関心を持ち、目的に応じて工夫して製作することができる(袋など)。</li> <li>製作計画をもとに縫い方や手順を考えて製作することができる。</li> <li>製作の楽しさや製作した物を生活に活用する喜びを味わうことができる。</li> </ul> <p>①つくりたい物を考えよう [1 時間]</p> <p>②計画を立ててつくろう [8 時間]</p> <p>新学習指導要領〈題材指定〉 袋などの製作</p> <p>③楽しく使おう [1 時間]</p>		

11月	12月	1月	2月	3月
[3 学期] 12～16 時間				
<p>7 食べて元気に B(1)(2)(3) 10 時間</p> <p>・なぜ食べるのかを考え、日常の食事や使われている食品に関心を持ち、栄養のバランスを考えた食事を大切にしようとする。</p> <p>・五大栄養素を知り、食品に含まれる栄養素の体内での働きがわかる。</p> <p>・五大栄養素の働きによる食品のグループ分けがわかる。</p> <p>・ご飯とみそ汁に関心を持ち、調理することができる。</p> <p>①なぜ食べるのか考えよう [1 時間]</p> <p>②五大栄養素のはたらき [1 時間]</p> <p>③3つの食品のグループとそのはたらき [1 時間]</p> <p>④ご飯とみそ汁をつくろう [7 時間]</p> <p>新学習指導要領〈題材指定〉 米飯・みそ汁の調理</p> <p>チャレンジコーナー</p> <p>・学習したことを家庭生活に生かす。</p> <p>* 2 学期に 20 時間以上を配当できる場合は、3 学期に示している「8 じょうずに使おうお金と物」の「①わたしたちの生活とお金 ②買い物の仕組みと消費者の役割 ③お金の使い方を考えよう」(3 時間)を移行させることもできる。</p>	<p>8 じょうずに使おう お金と物 C(1) 6 時間</p> <p>・物や金銭の計画的な使い方に興味を持ち、適切に買い物をしようとする。</p> <p>・目的に合った物の選び方や買い方ができる。</p> <p>・買い物の仕組みと消費者の役割がわかる。</p> <p>①わたしたちの生活とお金 [1 時間]</p> <p>②買い物の仕組みと消費者の役割 新学習指導要領 (新設) [2 時間]</p> <p>③お金の使い方を考えよう [1 時間]</p> <p>④買い物のしかたを考えよう 新学習指導要領 (情報の収集・整理) [2 時間]</p> <p>9 寒い季節を快適に B(4)(6)C(2) 6 時間</p> <p>・寒い季節の衣服の着方や住まい方に興味を持ち、快適に生活しようとする。</p> <p>・衣服の働きがわかり、着方を工夫することができる。</p> <p>・あたたかく、明るい住まい方が工夫できる。</p> <p>①あたたかい着方をくふうしよう [2 時間]</p> <p>②明るく、あたたかく住まうくふう [4 時間]</p> <p>10 家族とほっとタイム A(1)(3) 3 時間</p> <p>・家族との触れ合いや団らんに関心を持ち、楽しくする工夫をすることができる。</p> <p>・家族との触れ合いや団らんの大切さについて理解する。</p> <p>①楽しく団らん [1 時間]</p> <p>②つながりを深めよう [2 時間]</p> <p>5 年生の学習をふり返り、6 年生の学習へ A(1)～(3)B(1)～(6)C(1)(2) 1 時間</p> <p>・5 年生の学習をふり返り、自分でできるようになったことを確認し、よりよい家庭生活に向けた学習の見直しをもつ。</p> <p>・1 年間の学習をもとに、環境を考えた生活の仕方を考えたり、工夫したりしている。</p> <p>チャレンジコーナー</p> <p>・学習したことを家庭生活に生かす。</p>			

実践は時間外にしている。指導計画案の時間の中から、学校状況に応じて 2 時間分を充当してください。指導学年・時期は限定しない。学期の終わりでもよい。

冬期休暇を 活用する場合		[3 学期] 10 時間		
<p>6 くふうしよう おいしい食事 B(1)(2)(3) 12 時間</p> <p>・栄養のバランスを中心に、1 食分の献立を考えることができる。</p> <p>・身近な食品を用いて調理計画を立て、ゆでたりいためたりしておかずをつくることができる。</p> <p>・日常の食事の大切さに気付き、楽しく食事をしようとする。</p> <p>①バランスのよいこんだてを考えよう [5 時間]</p> <p>新学習指導要領 (一食分の献立の工夫)</p> <p>②身近な食品でおかずをつくろう [6 時間]</p> <p>新学習指導要領〈題材指定〉 じゃがいもをゆでる調理</p> <p>③楽しく、おいしい食事をくふうしよう [1 時間]</p> <p>チャレンジコーナー</p> <p>・学習したことを家庭生活に生かす。</p>	<p>7 共に生きる生活 A(3)C(2) 9 時間</p> <p>・自分や身近な人びとの生活や環境とのかかわりに気付き、快適な生活の仕方を工夫することができる。</p> <p>・身近な人びとのかかわりについて考え、感謝の気持ちの伝え方を工夫することができる。</p> <p>・地域で快適に生活するための工夫について考え、実践しようとする態度を養う。</p> <p>①わたしたちの生活と地域 [4 時間]</p> <p>②わたしの気持ちを伝えよう [4 時間]</p> <p>③考えよう これからの生活 [1 時間]</p> <p>成長したわたしたち } A(1)～(3)B(1)～(6)C(1)(2)</p> <p>中学生に向かって } 1 時間</p> <p>・2 年間の学習をふり返り、できるようになったことを確認する。</p> <p>・中学校での学習に興味を持ち、意欲を高める。</p>			

# ～わたしの家族と家庭生活～

ガイダンス「これから家庭科を学ぶために」

2 時間＋随時

教科書該当ページ p.1 ～ 7

A(1) ア

## 1. 学習の目標

- ・自分の成長を生活の自立の視点から振り返り、家族に支えられて成長してきたことを理解する。
- ・自分と家族の関わりを考え、家庭生活が家族の協力によって営まれており、家族の大切さや自分も家族の一員であることを理解する。
- ・自分でできるようになりたいことを話し合い、家庭科を学ぶ意義や2年間の学習の見通しと目標をもつ。
- ・家族と幸せな家庭生活を営むうえで大切なことを話し合い、健康・快適・安全、協力、生活文化、持続可能性等の見方に気づく。

## 2. 題材計画（学習指導計画）

	配当時間	学習活動	主体的・対話的な学びに向けた留意事項	教材・教具例	評価
課題設定計画	1時間	1. 入学から今までの自分の成長を見つめ、家族との関わりについて話し合う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">家庭生活がどのようにして成り立っているか調べよう。</div> 2. 自分と家族の1日の生活を調べ、家庭生活がどのように営まれているか考える。 3. 家族の役割りについてまとめ、本時を振り返る。	○自分の成長を振り返り、家族や家庭生活について本時のめあてとゴール（評価）をつかませ、学習の見通しをもたせる。 ○グループで調べた結果について検討させる。よりよい考えとなるようグループや全体で改善点を考え共有化を図る。 ○学習課題について自己評価し、家族や家庭生活についてキーワードでまとめさせる。	○写真・資料 生活科や二分の一成入式の記録の活用（児童の状況を配慮して） ○自己評価のワークシート	○家庭生活の営みや自分と家族との関わりについて説明できる。（知識・理解） ＊キーワード 家庭生活 家族との関わり 愛情 協力 協働 成長 等
実践活動改善（習得）	1時間	1. 自分の目指す家庭生活について話し合う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">2年間の学習の見通しと目指す自分の姿を考え、学び方を。</div> 2. 2年間の学習を見通し、できるようになりたいことやゴールの姿を考える。 3. よりよい家庭生活について話し合い、生活に大切な視点（見方）を考える。 4. 本時を振り返り、これから取り組む家庭科への意欲や期待を高める。	○自分が目指す家庭生活や家族との関わりについて話し合わせ、本時の目当てとゴール（評価）をつかませる。 ○なりたい自分の姿や家庭科を学ぶ意義を考えさせ、2年間の学習の見通しをもたせる。 ○よりよい家庭生活とはどんな生活かを話し合わせ、健康、協力、快適、安全、生活文化、持続可能性などの視点から工夫していくことに気づかせる。 ○本時の学習を自己評価し、家庭科の学びへの展望をもつ。	○教科書の挿絵 デジタル教科書 ○児童の作品例 ○衣、食、住、消費等の生活の写真、イラスト ○自分の成長や目標を記録するワークシート	○よりよい家庭生活をおくるために家族の一員としてできるようになりたいことや2年間の学習のゴールの姿を説明できる。（知識・理解） ＊キーワード 自立、家族の一員として、健康、安全、協力、協働、生活文化、持続可能性、生活の見方 等
いかす深める評価（活用）	学期学年等区切りの時期（1時間）	1. 自分の成長を振り返る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">学習や家庭実践を振り返り、自分の成長を見つめよう</div> 2. できるようになったことや家庭実践の様子などを報告し、家族の一員としての自分やこれからの実践の見通しをもつ。	○ノートや実践記録（ポートフォリオ）を振り返り、成長や家族の一員としての自分を見つめさせる。 ○グループや全体で報告会を開き、有用感や自信を高めさせる。 ○これからの家庭実践や家族への関わりを考えさせ、意欲をもたせる。	○学習ノート、実践計画、保護者からの感想、写真等の記録 ○実践記録（ポートフォリオ）	○学んだことをどのように家庭生活に役立てているか報告会を通して生活者としての自立や自己有用感を感じている。 ＊キーワード 自信、有用感、家族との関わり等に関する言葉



### 3. 題材計画の解説

#### ●ガイダンスとしての扱い

- 本題材は、家庭科を学ぶ意義や2年間の学びの見通し、目指す自分像をもたせることで意欲や主体的な学びを促すことをねらいとする。5年生ではできる自分を、6年生では家族の一員としての自分を目指し、定期的に成長や家庭実践を振り返らせ、自信と態度を育てていく。また、よりよい家庭生活を工夫するうえで大切な視点を話し合い、生活者としての見方・考え方にも気づかせ、家庭科の学びにつなげていく。

#### ●「主体的・対話的で深い学び」に向けた指導の工夫

- 主体的な学びには、見通しをもち評価を通して自らの学びを振り返るプロセスが必要となる。本題材はガイダンスとして、2年間の学びの見通しとゴール像をもたせ、定期的に自分の成長を振り返る課題—活動—評価の問題解決の学びを理解させ、一貫して行うことで主体的な学びを実現させていく。
- 対話的な学びとは、考えを相互作用させながら広げたり深めたりして科学的な理解を図ることであり、児童が協働し相互作用を通して新たな知の創造、自分たちの納得解を見いだす活動とすることが大切である。

### 4. 使用教材、活動例

#### ●使用教材（ワークシート）

- 2年間の学習の見通しをもたせる際、できるようになりたいことを考えさせ、自分の目標をもたせる。
- よりよい家庭生活を実現するための見方・考え方について、児童の思いを出し合い、それをまとめながら学びの視点に気づかせる。
- 定期的に自分の学びや実践を評価し、成長を実感できるよう1枚ポートフォリオを作成していく。

- 【見つめる】 自分目指す家庭生活について話し合おう。  
2年間の学習の見通しと目指す自分の姿を考えよう。
- 【測べる】 家庭科の学習を通して、できるようになりたいことや目指す姿を考えよう。  
5年生 できる自分    6年生 家族のためにできる自分    社会人 自立した自分
- 【深める】 よりよい家庭生活をおくために大切なことをイメージマップであらわそう。  
【食べること】      【暮らすこと】 【住むこと】  
【家族・家庭生活】      【地域・環境・買うこと】
- 【振り返る】 自己評価し、学習をまとめよう。  
なりた自分や目指す姿を考えたことができた。    ○ △ ○ 3つ○  
よりよい家庭生活に大切な視点を考えることができた。    ○ △ ○ 2つ○  
家庭科の学習への期待や意欲を持つことができた。    ○ △ △ 1つ○または0  
まど

**1年間の学びの記録（ポートフォリオ）**

目指す姿

1学期の自分の成長・家庭生活の工夫

月 日 実践計画	月 日 実践計画
家族の声	家族の声

2学期の自分の成長・家庭生活の工夫

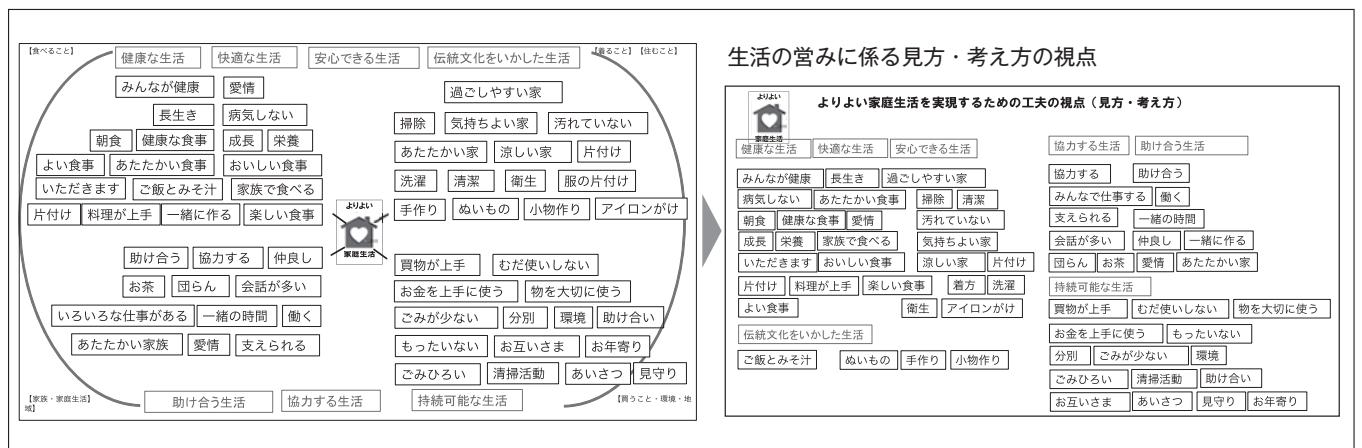
月 日 実践計画	月 日 実践計画
家族の声	家族の声

1年間の自分の成長・目標の達成

#### ●活動例

「よりよい家庭生活」とはどんな生活を「衣食住、地域、環境、買物、家族」でイメージさせ、考えや思いを出し合い、それらを整理しながら、健康・快適・安全、協力・協働、生活文化、持続可能性の視点に気づかせる。

児童が考えた様々な言葉は、見方・考え方の具体的な視点（下位概念）となるものであり、各内容の学習で取り上げていくようにする。



# 共に生きる生活

～自分だからできることを考えよう～

2 時間

A(3) アイ

教科書該当ページ p.104 ~ 108

## 1. 学習の目標

- ・家庭生活が、地域の人々との関わりで成り立っていることが分かり、地域の人々との協力が大切であることを理解することができる。 【知識・技能】
- ・快適で安全な生活をするために、自分勝手では他の人の迷惑になったり、我慢したりする場面があることもあることも踏まえながら、自分ができることを考える。 【思考力・判断力・表現力】
- ・幼児や高齢者など、様々な人々と共に協力しあって生活するために、自分のできることを考えて取り組んでいこうとする。 【主体的に学習に取り組む態度】

## 2. 学習指導計画

	配当 時間	学習活動	指導上の留意点	教材・教具例	資質・能力
課題 設定	1 時間	この2年間で、「自分ができるようになったこと」及び「それによって、喜んだ人や助かった人」を振り返り、自分の成長を自覚する。そして、家庭生活が家族の協力だけでは成り立っていないことを知り、「自分だからできること」を考える。	できるようになった自分を振り返るのみでなく、そこに関わった他者の存在を自覚させる。そして、自分がしたこと、助かった人や笑顔になった人など自分がすることによる「共生」の視点と自己有用感を自覚させる。また、地域のために活動している地域の方の話から、自分と地域との関係についても考えられるようにする。	これまでに支えられてきた地域の方の活動の写真 (地域の花壇の花植え、地域の方の土地を使ったさつまいも掘体験等) 地域の活動に関わっている方の話	快適で安全に生活するためには、地域の人々との関わりが必要であること、幼児や高齢者など、様々な人々と共に協力し助け合って生活することが大切であることの基礎的な理解。
計画	0.5 時間	自分ができることを考えて、家庭や地域での実践計画をたてる。	設定した課題をもとに、「自分が(・)(だから)できること」を考えて実践計画をたてさせる。	自分が地域に関わっている例を示しておく。 例) ゴミすて、回覧、あいさつ、自治会の活動等	
実践 および 評価・ 改善	(課外) 0.5 時間	実践したことを紹介し合い、自分と地域の関わりを考える。そして、自分が他者からしてもらっていることを自覚し、さらに自分ができることを考えていく。	友達の実践から、自分では気付かなかったことや自分でもできそうなことを互いに見つけられるような紹介とさせる。また、地域の中での実践が、自分と他とのかかわりの中で「暮らし」が成り立っていることを再確認させ、これからも「地域で暮らしていく」ことについて再度考えさせる。	友達の実践活動	

### 3. 学習指導計画の解説

約2年間、家庭科を学習してきた児童は、家庭生活における仕事について考え、長期休業を利用して仕事を分担したり、家庭生活における仕事を行ったりしてくなる。一方、生活科や社会科等で地域の人との関わりを学習してきて、「共生」の視点から自分ができるようになったことと地域を結びつけて捉えることは十分ではなく、地域に主体的に関わっている児童は少数である。そこで、本題材では、改めて「暮らす」ことを児童に問い直す。2年間の家庭科学習で「できるようになったこと」を自覚する

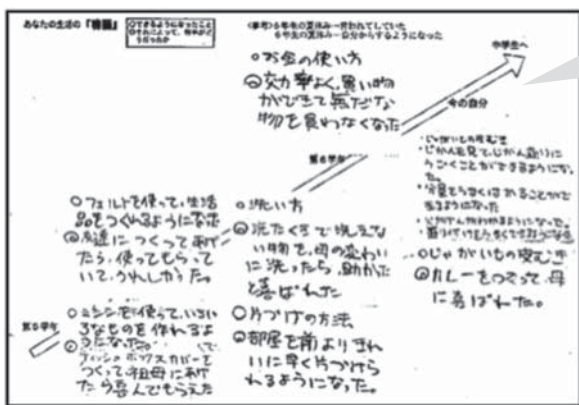
児童は、一人暮らしにもあこがれる児童が出てくるであろう。また、成長過程にある児童の中には、他からの干渉をうっとうしく感じ始める児童もいる。ここで「だれかと暮らす」ことを再度問い直し、自分が他者と関わって暮らしていくことの価値を認識させたい。そして、地域の暮らしを考えている地域の方の話を聞かせる。「自分だからできる」ことがあることや、「自分がすること」で他の「だれか」が笑顔になることを自覚させ、他者や地域に主体的に関わる児童を育てていきたいと考えた。

### 4. 使用教材（ワークシート）、題材・活動例

#### ●使用教材（ワークシート）

【自分の成長を「物語る」】

\*できるようになったことと、それによって笑顔になった人や助かった人など、他とのかかわりを付箋で記入する



【地域の方のお話】

100歳の方が「自分があなたにできることは何？」と問いかけた事例を紹介していただく。そして、異世代が交流することや、地域で子供達が高齢者と関わることが、地域を大切に暮らすをつくっていくことになることについての具体的な活動について話していただく。

#### ●題材・活動例

①「一人で暮らす？だれかと暮らす？」を問う。

正解はない。成長した自分が自立のための基礎の力をつけてきているのか、「だれか」がいる安心感やしてもらっている自分が自覚できるのか、ということについて考えられる時間としたい。そして、その「だれか」にとっての『だれか』が自分であることに気付かせ、「今」暮らしている「だれか」にとっての『自分』の存在価値を自覚させる。家庭生活は一人では成り立たないことから、だからこそ互いに協力しあう「今」があることに気付かせたい。あえて「家族」ではなく、「だれか」とするのは、様々な家庭生活の状況に配慮したことと、今の生活での「だれか」は主に家

族であるが、将来の「だれか」には、家族以外にも、シェアハウスで暮らす友人や将来のパートナー等も含まれることも踏まえたからである。

②「自分だからできること」を考えさせる。

地域の方の話を聞かせる。100歳であっても、他の方の力になれると思える自分がいるということの価値を考えさせ、自分のできることを考えさせる。上記でどちらを選択しても、地域の中に幼児や高齢者がいることや協力することの意味について考えさせ、「自分が（だから）できること」を考えさせたい。

これからの生活を考えよう ～だれと どう暮らしていきたい？～ ①

5年 組 番 氏名 \_\_\_\_\_

- 2年間の家庭科を学んできて、できるようになったことをふせんに書き出してみましょう。  
衣食住・環境・金銭の扱い・整理整頓・そうじ・家族との生活・時間の使い方・その他  
自分ができるようになったことで、良かったことや、うれしかったこと  

<ふせんの例>  
 ◎洗濯機が使えるようになった  
 ◎夏休みにおいしーちゃんに作ったお菓子で、自分もうれしかった。

◎赤坂ができるようになった  
 ◎家族の分もたむことが出来るようになって、お母さんが喜ぶことができて、良かった。
- これまで何回か、「一人で暮らす？だれかと暮らす？」を考えてきました。「こんないろいろなことができるようになった自分」をみて、今、あなたはどのように考えますか？  
 一人で暮らしたい    だれかと暮らしたい    ← ○をつけよう  

[理由]
- 「だれか」について考えてみよう  
 今のあなたにとっての「だれか」とは…
- 地域で活動している○○さんのお話を聞いて考えたこと
- 「あなただからできること」を考えてみよう

【感想】 これからの暮らしや、「だれかと暮らす」ことについて、あなたの考えを書こう

# ～見直そう！毎日の食事～

## 1. 学習の目標

- ・ 栄養を考えた食事のとり方や、一食分の食事の整え方について理解する。 【知識・技能】
- ・ ジャがいもや加工品を用いた基礎的・基本的な調理をすることができる。 【知識・技能】
- ・ バランスのとれた食事について課題を見つけ、その解決を目指して一食分の献立について考えたり、自分なりに工夫したりすることができる。 【思考力・判断力・表現力】
- ・ 一食分の食事を工夫することを通して、家族や周りの人との関わりを深め、日常の食事を楽しくしようと主体的に取り組もうとしている。 【学びに向かう力・人間性】

## 2. 学習指導計画

	配当 時間	学習活動	指導上の留意点	教材・教具例	資質・能力
課題 設定	1 時間	1 お弁当の内容を見直し、1食分の食事の整え方に関心をもつ。 ・ 1食分の食事の整え方に対する見方を捉える。	・ 好きなものだけで作ったお弁当をもとに、おいしい弁当がどんなものが考えさせる。 ・ いろいろ・栄養のバランス・量について資料をもとに実感できるようにする。	・ 栄養の偏った弁当の写真 ・ 栄養士さんのお話のVTR ・ 野菜欠乏のラットの写真 ・ 食品の分類表	・ 日常の食事のとり方に関心を持ち、栄養を考えた食事のとり方についての考え方が分かる。
計画	6 時間	2 いろいろ・栄養のバランス・量について考えながら、お弁当を変身させる。 3 ジャがいもの食材としてのよさが分かる。 4 加工食品のよさについて理解する。 5 ジャがいもと加工食品を使った調理について計画を立て、見直しをもつ。 6・7 ジャーマンポテトの調理実習を行う。	・ ワークシートをもとに、おかずを選択させ、好きなものだけで作った弁当をバランスのとれた弁当に変身させる。 ・ ジャがいもが安定して手に入りやすい食品であり、栄養的にも良いことをとらえさせる。 ・ 加工食品は、手軽さ・安全性・保存性などのよさがある食品であることに気付かせるようにする。 ・ ジャーマンポテトを取り上げ、作り方と加工食品の扱い、皮の剥き方の学習が必要であることの見直しをもたせる。 ・ 皮を剥く時の基本的な包丁の使い方・芽を取る必要性や取り方をICTを活用しながら確認する。	・ ワークシート  ・ ジャがいもの成分図 ・ ジャがいも(男爵・メイクイーン) ・ 加工食品と生鮮食品のラベル  ・ ワークシート  ・ 調理実習器具 ・ 食材 ・ 皮剥き VTR	・ 一食分の食事について食品の栄養的特徴や組み合わせなどを考慮し、工夫することができる。 ・ ジャがいもや加工食品の食材としてのよさが分かり、目的に応じて調理することができる。
実践 および 評価・ 改善	3 時間	8 1食分の食事について給食の献立をもとに見つめ直す。 9 1年生と給食時間に交流するための計画を立てる。 ・ 1年生との給食交流会(課外時間) 10 給食時間の1年生との交流を振り返る。	・ 主食・主菜・副菜・汁物で組み合わせる1食分の食事を考えていることを捉えさせる。 ・ 箸の正しい持ち方やマナーの大切さにも気付かせる。 ・ 給食の栄養バランスのよさやいろいろ、一汁三菜をもとにした工夫や食事のマナーについて見直し、一緒に食べる1年生にも伝えられるようにする。 ・ 交流をしてみた感想から、自分たちの実践を評価・改善できるようにする。また、自己の成長に気付かせるようにするとともに、家庭でできることを考えさせる。	・ 栄養士さんのお話のVTR(給食の工夫) ・ 嫌い箸  ・ ワークシート ・ 交流日の給食の献立  ・ ワークシート	・ 楽しく食事をするためのマナーに関心を持ち、実践しようとする。 ・ 一食分の食事の工夫が分かり、実践したことについて、評価・改善を行い、次への課題を見つけようとしている。



### 3. 学習指導計画の解説

#### ●題材設定の理由

題材を構成するにあたっては、B(1)(2)(3)の項目を相互に関連させて取り扱うようにする。本題材では、児童にとっても身近である弁当・給食を見つめ直していくことで、1食分の食事の整え方についての学びを深めていくようにする。特に偏りがちな野菜の摂取について、その必要性も含め理解させるようにする。また、五大栄養素についてはこれまでの学習も含めて繰り返し扱えるようにし、定着を図っていく。

また、1食分の食事を整えていくために、おかず作りの

調理も加工食品の取り扱いと関連させて学習を進めていく。加工食品については学んだことを活用して広げ深める学習として位置付ける。基礎的・基本的な技能の定着と既習内容を考慮しじゃがいもの調理実習を位置付けるようにし、家庭での実践に生かせるようにする。さらに、A(3)の項目と関連を図り学んだことを異学年に伝える場を設けることで、学んだ知識や技能を活用させるとともに、意欲を持って学習を展開できるようにする。

### 4. 題材・活動例、使用教材

#### ●題材・活動例

一食分の食事の整え方の導入として弁当を扱う。好きなおかずだけを詰めた弁当をどのようにおいしい（健康・バランスのとれた）弁当に変身させていくかを考えていく。

子どもの好きなおかずだけ詰めた弁当



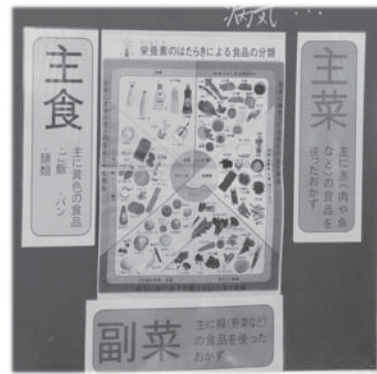
どんなことを考えてお弁当って作っているのかな？



野菜が足りないと困ることってあるのかな？

栄養のバランスがいつてどういうことなのかな？

美味しそうだけど、これでいいのかな？



栄養素のはたらきと食品の分類表

栄養士さんに聞いてみよう (VTR)



どんなおかず（副菜）を入れたらいいか考えて、お弁当を美味しく変身させよう。

自分でもおかず（副菜）を作れるようになりたいなあ。



見つめる・気づく

分かる・できる

広げる・深める

#### ●使用教材

1年生との給食時間の交流を計画する時に使用するワークシートの一例。楽しく会食するだけでなく、今までの学習の中で得た知識・技能を活用し、食事の整え方やマナーについても分かりやすく伝えられるようにする。

学習して分かったことを交流日の給食に当てはめて考え、知識・技能を活用させるようにする。給食のおすすめポイントとして1食分の食事の整え方の工夫を1年生に分かりやすく説明できるようにする。

また、伝統文化の継承の視点で、箸の使い方について、1年生に教えるという目的意識をもって確認できるようにする。

1年生と給食を楽しく食べよう。  
★栄養士さん お話を思い出して

給食 ひみつを1年生に紹介しよう！

1年生と交流する日  
給食 おすすめポイントはこれ！>

★みんなが気持ちよく・楽しく食事をするために  
1年生にどんなことを伝えたいのかな？

★1年生にお話し 使い方を教えましょう。  
こ 中で、まちがった使い方はどれでしょう？

にぎりばし	ねぶりばし	ほしわたし	よせばし
はしをつかんでもつ	はしをなめる	はしからはしへ受けかわ	箸をほしでひきよ
たたきばし	まよいばし	なみたばし	つきばし
はしで箸をたたく	どの料理を取ろうか	汁をたらしながら	はしで食べ物を
ふらふらする	食べ物を戻す	つかます	

<1年生に教えるとしたらどれかな？  
1つ選んで、理由も書きましょう。>

# ～暑い季節を快適に～

B(4) アイ

8時間

教科書該当ページ p.78 ~ 85

## 1. 学習の目標

- ・暑い季節の変化に合わせた生活の大切さが分かり、環境に配慮した快適な着方、住まい方について理解する。
- ・衣服の手入れである手洗いによる洗濯ができる。
- ・暑い季節の着方、住まい方についての課題解決を目指して考えたり、自分なりに工夫したりできる。
- ・暑い季節の変化に合わせた生活の工夫についての課題を見つけ、課題の解決に取り組む。

## 2. 学習指導計画

	配当 時間	学習活動	指導上の留意点	教材・教具例	資質・能力
課題 設定	1時間	暑い季節の暮らし方について課題を見つける。  ①暑い季節を快適に過ごすための衣食住の工夫について調べ、課題を見つける	事前に暑い季節を快適に過ごすための衣食住の工夫を、家庭で調べてくるようにする。  寒い季節の衣・住生活の工夫と対比させてまとめる。(日光をさえぎる、通風) 自然の音(川のせせらぎ、小鳥のさえずり)、快適な音(風鈴、花火)や浴衣について触れる。	家庭での調べ学習用ワークシート  学習シート	暑い季節の変化に合わせた生活の工夫についての課題を見つけ、解決に取り組んでいる。(学びに向かう力・人間性)
計画	5時間	暑い季節の暮らしの工夫について調べる。  ①すずしい衣服の着方について調べる。  ②衣服の手入れについて調べたり、手洗いの仕方について学習したりする。  ③快適な住まい方について調べる。	体の熱を逃がす襟や袖の形、通気性のよい布について、体験や実験を通して学習できるようにする。  洗濯は手洗いを中心として学習させる。  日光をさえぎる、通風など、自然を生かした生活の大切さについて、調査を通して理解できるようにする。  生活の中の音(快適な音、不快な音)について実験を通して学習できるようにする。	目の詰まった・目の粗い生地、ドライヤー  靴下、たらい、洗濯板、石鹸、物干し、洗濯ばさみ  緑のカーテン、温度計窓、テープ  騒音計 ワークシート	暑い季節の変化に合わせた生活の大切さが分かり、快適な住まい方について理解している。(知識・技能)  衣服の手入れの手洗いによる洗濯ができる。(知識・技能)
実践 および 評価・ 改善	2時間	暑い季節の暮らし方の工夫について考え、実践をする。  ①実践計画をたてる。  ②実践報告会を行う。	学習したことをもとに、衣・住に関する実践計画を立てる。  改善点を見つけ、報告会後にも工夫して実践をしていくようにする。	ワークシート  タブレット 大型テレビ	暑い季節の着方、住まい方についての課題解決を目指して考えたり、自分なりに工夫したりできる。(思考力・判断力・表現力)  暑い季節の変化に合わせた生活の工夫についての課題を見つけ、課題の解決に取り組む。(学びに向かう力・人間性)

### 3. 学習指導計画の解説

#### ●題材設定の理由

今日では生活が便利になり、電気、ガス等を利用して、誰でも簡単に、快適な生活をするできるようになった。しかし、季節の変化に合わせ、自然を生かし、工夫して生活することは、資源や環境を守り、持続可能な社会の構築のためには必要である。そこで、暑い季節を、自然を生かしながら工夫して生活する児童の育成を図るために本題材を設定した。

まず、児童が自分の生活を見つめ、衣食住に関する工夫について調べ、暑い季節の暮らし方の衣・住に関する課題を見つける。次に、その課題を解決するために、調査や実験を行いながら、解決方法を学習したり、考えたりする。そして、C(2)「環境に配慮した生活」と関連させ、自然を生かした、自分なりに工夫した、暑い季節の快適な衣・住生活を実践し

ていくように指導していく。さらに、実践したことを発表しあい、友達同士で意見交流して、自分の実践を評価・改善しながら実践を続けていくように指導する。

また、本題材では、日本の伝統的な衣服である、ゆかたについて触れるようにする。さらに、音については、風鈴、花火、川のせせらぎ、小鳥のさえずり等の快適な音を指導する。騒音などの不快な音については、A(3)「家族や地域の人々との関わり」のAの(イ)で扱うが、学校の中の音調で簡単に取り上げることも考えられる。

本題材は、寒い季節の衣・住生活の学習と対比させながら指導する。また快適な着方として、B(4)「衣服の着用と手入れ」と関連させて、手洗いを中心とした洗濯、ボタン付け、ブラシをかけるなどの衣服の手入れも指導する。

### 4. 題材・活動例、使用教材（ワークシート）

#### ●題材・活動例（学校生活の中での音調べ）

##### 目標

- 音には快適な音や騒音となる不快な生活音があることを理解する。(知識・理解)
- 快適な生活について考え、自分なりに工夫することができる。(思考力・表現力・判断力)

①本時のめあてを知る。

生活の中の音について考え 快適な生活をくふうしよう

- ②学校生活で、困った音やいやな音があるか考える。
  - ・廊下の人の声がうるさくて、授業に集中できなかった。
- ③学校の音調べをする。(教室、特別教室、廊下、校庭等) 上記学習シート活用
- ④色々な場面での生活の音について考える。
  - ・学校(教室、廊下、校庭等での授業中、休み時間等)
  - ・家(話し声、犬の吠える声、風鈴、テレビの音等)
  - ・地域(遊ぶ子供の声、小鳥のさえずり、車の音等)
- ⑤調査した生活の音や、その感じ方について発表する。
- ⑥生活の音について、地域の人が快適に生活するために自分がかくふうできることを考える。
- ⑦考えたことを友達と意見交流する。
- ⑧本時の振り返りをする。



##### 評価

- 音には快適な音や騒音となる不快な生活音があることについて理解している。(知識・理解) <学習シート>
- 快適な生活について考え、自分なりに工夫している。(思考力・表現力・判断力) <学習シート>

#### ●ワークシート



- 1 今までの学校生活の中で、音で困ったこと
- 2 生活の中の音調べ

場所	どんな音か	音に対する感じ方(○をする)
		快適な音・不快な音
		快適な音・不快な音
		快適な音・不快な音

- 3 音を調べて気がついたこと
- 4 快適な生活のくふう

近所に高齢な方や赤ちゃんが住んでいます。テレビを見るときに、あなたはどうしますか。地域の人が快適に生活するために、あなたがくふうすることや気をつけることを考えましょう。

# ～○○小ミシン工房～

自分だけの袋をつくろう

B(5) アイ

9 時間

教科書該当ページ p.88 ～ 95

## 1. 学習の目標

・生活を豊かにするための布を用いた製作について、物を出し入れしやすい袋の製作の仕方が分かり、ミシンを用いた直線縫いで製作をして、製作をした物を生活に生かそうとする。

入れたい物に合った袋の大きさの決め方や、ゆとりのもたせ方、ミシンの安全な取扱い方が分かり、ミシンを用いた直線縫いで袋の製作をすることができる。 【知識・技能】

布を用いた袋の製作について問題を見だし、入れたい物に合った袋の大きさやゆとり、製作に必要な布の量やミシン縫いの仕方を考え、工夫することができる。 【思考力・判断力・表現力等】

生活を豊かにするための布を用いた物の製作に関心をもつとともに、製作をする楽しさを味わい、製作をした袋を、学校や家庭で活用しようとしている。 【学びに向かう力・人間性等】

## 2. 学習指導計画

	配当時間	学習活動	指導上の留意点	教材・教具例	資質・能力
課題設定	1時間	○布を用いた袋の製作に関わる疑問点や調べたいことを話し合い、課題をつかむ。	○布を用いた袋の製作に関心をもって疑問点や調べたいことを考えられるように、物を出し入れしやすく、入れる物に合った大きさの袋を提示する。	タブレットの大きさに合った見本の袋	布を用いた袋の製作について問題を見だし、課題をつかむ。
計画	1時間	○入れたい物に合った袋の製作計画を立てる。	○入れたい物に合った袋の製作をするために必要なミシン縫いの仕方や、製作の手順について考えられるように、袋の分解標本を用意する。	製作の手順ごとの分解標本	入れたい物に合った袋の製作をするために必要なミシン縫いの仕方や、製作の手順を考える。
実践および評価・改善	7時間	○試しの袋の製作をする。 (1時間)  ○必要な材料や用具を用意する。(家庭) ○しるしを付けて、布を裁つ。 (1時間)  ○ミシンで縫う。(4時間) ・試しの袋を縫う。 ・しるしを付けて裁った布の向きを縫う。 ・出し入れ口を縫う。 ・ひもを縫い付ける。 ○製作をした袋を家庭や学校で活用したり、布を用いて他の袋の製作をしたりする。(家庭)  ○製作をした袋を学校や家庭で活用した感想や、布を用いて他の袋の製作をしたことについて話し合う。 (1時間)	○入れたい物に合った袋の大きさの決め方や、ゆとりのもたせ方を理解できるように、中に入れた物が透けて見える不織布とミシン縫いの代わりとするクリップを用いて入れたい物の出し入れを試行する場を設定する。  ○布を無駄にしないようにしるしをつけて裁つことができるように、試しの袋を布の上に置き、しるしを付ける位置を確かめる活動を設定する。  ○ミシンの安全な取扱い方や、直線縫いの仕方を身に付けられるように、試しの袋や布を使った直線縫いの仕方を試行した結果と、目標とする状態とを比較して評価する活動を繰り返し設定する。  ○生活を豊かにする布を用いた物の製作をする意欲をさらに高められるように、話し合いの観点として、「自分で製作した物を実際に活用するよさ」を提示する。	中に入れた物が透けて見える不織布とミシン縫いの代わりとするクリップ  製作の手順ごとの分解標本  製作の手順ごとの分解標本と、目標とする状態となる見本	入れたい物に合った袋の大きさやゆとり、製作に必要な布の量が分かる。  製作をする袋の大きさに合わせて、布を無駄にしない位置にしるしをつけることができる。 ミシンの安全な取扱い方が分かり、ミシンを用いた直線縫いで袋の製作をすることができる。  生活を豊かにする布を用いた物の製作に関心をもつとともに、製作をする楽しさを味わい、製作をした袋を学校や家庭で活用しようとする。



### 3. 学習指導計画の解説

#### ●題材設定の理由

布を用いた袋は、日常生活で使用する事が多く、子どもたちにとって身近な立体構成の布製品である。1枚の布を中表にした左右のわきと出し入れ口を縫い、持ち手を付けることで完成するため、これまで生活を豊かにするための布を用いた製作で身に付けた、平面構成の製作に係る知識と技能を活用しながら、発展的に立体構成の製作に係る基礎的な知識と技能を身に付けることに適している。そして、製作手順が容易で短時間に製作ができるため、試しの袋の製作から、実際に自分の布を用いた製作へと段階的に製作をする中で、自信や見通しをもって製作を進められるよさがある。また、ゆとりのもたせ方やミシンを用いた直線縫いに焦点化できることから、試行を繰り返す中で布を用いた袋の製作に必要な知識と技能を身に付けられるだけでなく、自分で見付けた改善点を次の製作に生かし、工夫して製作をすることができる。さらに、入れる物に合った

ゆとりのもたせ方を考える必要性が生まれ、自分で形を自由に選択して、製作をすることができるため、製作の楽しさを感じることができる。

試しの袋の製作に用いる不織布は、丈夫で柔らかさがあり、子どもにとって扱いやすいものである。また、折ったリクリップで留めたりするだけで袋状になるため、物を出し入れしながら活用する場面を試すことができ、ゆとりの必要性を実感を伴って理解することができる。自ら製作をした袋を学校や家庭で実際に活用することは、その喜びや楽しさを感じ、生活を豊かにするための布を用いた製作をする意欲を、さらに高めることにつながる。

また、活用後に仕上がりや実際の使いやすさを振り返ることは、生活の中で用途に応じて布製品を選択する際の着眼点を養うことにつながる。

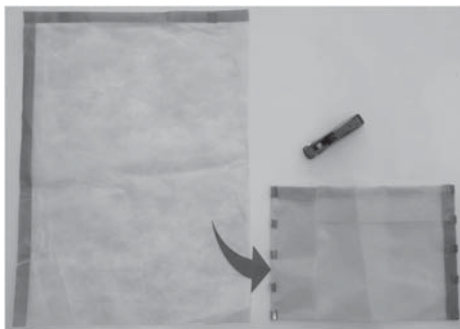
### 4. 使用教材、題材・活動例

#### ●第3時「試しの袋の製作をする」活動での使用教材

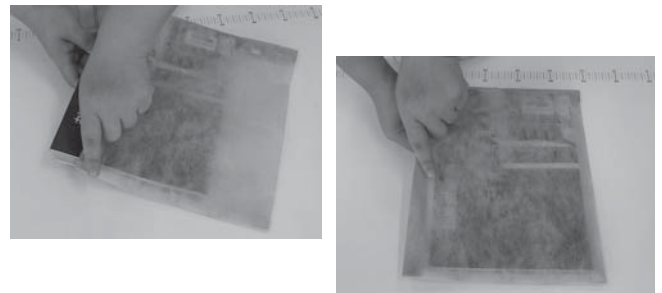
入れたい物に合った袋の大きさの決め方や、ゆとりのもたせ方を理解できるように、中に入れた物が透けて見える不織布と、ミシン縫いの代わりとするクリップを用いて、

入れたい物の出し入れを繰り返し試行する。また、入れたい物の種類が同じペアで互いの入れたい物の出し入れを試行し、評価を伝え合う。

不織布とガチャ玉で試しの袋を製作



物の出し入れを繰り返し試行

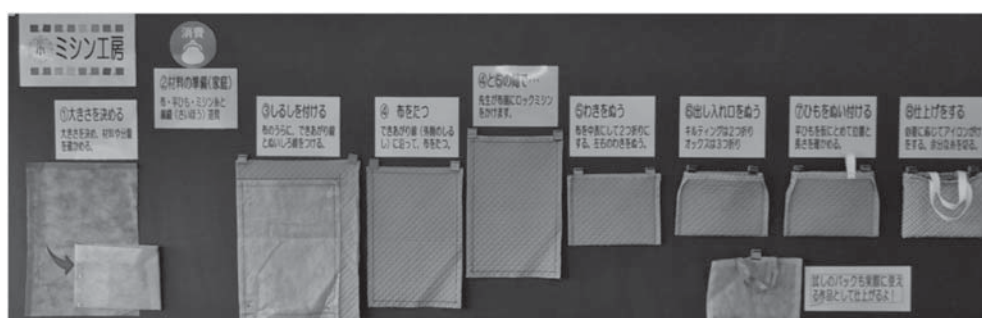


#### ●実践および評価・改善を繰り返す活動

子どもたちとともに立てた製作計画を、手順ごとの分解標本とともに、常時被服室内に掲示しておく。子どもたちは、この計画に沿って製作を進め、自分の縫い方を見本と

比較して評価し、改善点を次に生かしていく。なお、製作については、不織布で縫い方を試行した後、自分の布を用いた製作へと段階的に製作を進める。

子どもたちとともに立てた製作計画



# ～大切に使おう 物やお金～

かしこい消費者になろう！ 買物エキスパート

C(1) アイ

6 時間

教科書該当ページ p.52 ～ 55

## 1. 学習の目標

- ・ 買物の仕組みや消費者の役割が分かり、物や金銭の大切さと計画的な使い方を理解する。
- ・ 身近な物の選び方、買い方を理解する。
- ・ 購入するために必要な情報の収集・整理が適切にできるようにする。
- ・ 購入に必要な情報を活用し、身近な物の選び方、買い方を考え、工夫しようとする。
- ・ 消費者として物や金銭を大切に、持続可能な社会の構築に向けた消費生活を考えようとする。

## 2. 学習指導計画

	配当 時間	学習活動	指導上の留意点	教材・教具例	資質・能力
課題 設定	2 時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生活での物やお金の使われ方を考える。</li> <li>○自分の生活を振り返り物やお金がどのようにして得られるのか考える。</li> <li>○自分や家族の経験をもとに、買物の前に考えることについて話し合う。</li> <li>○買物をする時のきまり（契約）について知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・商品やサービスに金銭が必要な点に気付かせる。</li> <li>・物や金銭が、家族の労働の対価として得られた有限な物であることを確認する。</li> <li>・買物の際に目的や予算及び必要性を踏まえて考えることを確認する。</li> <li>・ロールプレイで売買契約について理解させる。</li> </ul>	<p>プレゼンテーションソフト</p> <p>ワークシート</p> <p>買物の契約と約束クイズ</p>	<p>買物の仕組みや消費者の役割が分かり、物や金銭の大切さと計画的な使い方を理解する。 (知識・技能)</p>
計画	2 時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習に必要なノートを買うための計画の立て方について考える。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・予算を確認する</li> <li>・情報を集める</li> <li>・品物を選ぶ</li> <li>・自分の考えを書く</li> <li>・友達の意見を聞いて考える</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実物を観察させて、多様な観点から情報を収集・整理できるようにする。(例：値段、分量、品質、使いやすさなど) 集めた情報は、各自で書き留めさせる。</li> <li>・事前に商品に付けられた表示やマークに関する基礎的な事項を確認しておく。</li> </ul>	<p>プレゼンテーションソフト</p> <p>ノートの実物</p> <p>ワークシート</p> <p>表示やマークの拡大表示</p>	<p>身近な物の選び方、買い方を理解する。 (知識・技能)</p> <p>購入するために必要な情報の収集・整理が適切にできる。 (知識・技能)</p>
実践 および 評価・ 改善	1 時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学んだことを活用して、みそ汁の調理実習で使用する青菜（ほうれん草や小松菜など）の買い方をグループで考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内容 B (2) との関連を図り、みそ汁の食材の購入について、判断についての考え方を出し合う。</li> <li>・生産地や加工状況が異なった実物を準備する。</li> </ul>	<p>野菜の実物</p> <p>ワークシート</p> <p>発表ボード</p>	<p>購入に必要な情報を活用し、身近な物の選び方、買い方を考え、工夫しようとする。 (思考力・判断力・表現力等)</p>
	1 時間	みそ汁の調理実習の実施（内容 B 別題材）			
	1 時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>○実践した結果を振り返り、改善策を考える。</li> <li>○もし買物で失敗してしまった時の対処方法を考える。</li> <li>○今後の買物で生かしたいことを、自分の言葉でまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目的に合う物を無駄なく購入してきたか振り返らせる。</li> <li>・買物で困ったら家族や先生に相談することや相談機関を活用することに触れる。</li> <li>・上手に買物するための視点を「買物エキスパートポイント」としてまとめる。</li> </ul>	<p>ワークシート</p>	<p>消費者として物や金銭を大切に持続可能な社会の構築に向けた消費生活を考えようとする。 (学びに向かう力・人間性等)</p>

### 3. 学習指導計画の解説

#### ●題材設定の理由

内容「C 消費生活・環境」では、「持続可能な社会の構築に向けて身近な消費生活と環境を考え、工夫する活動」により、児童の資質・能力を育成することが求められている。消費生活の学習では、児童に消費者の一員であることの自覚や、物や金銭が有限であることへの理解を促すために、「物や金銭がどのようにして得られるのか」や「本当に買う必要があるのか」を踏まえたうえで「どのように買うのか」を考えさせる活動につなげることが大切である。なお、今回の改訂では、内容 C (1) ア (ア) において「買物の

仕組み」として売買契約の基礎を、「消費者の役割」として買物で困った時の相談の仕方を新たに指導することになった。また、内容 C (1) ア (イ) 及びイでは、「情報の収集・整理・活用をすることが明記され、複数の「情報」から児童が自ら思考・判断して購入する物をするものを決める活動が重視されるようになった。

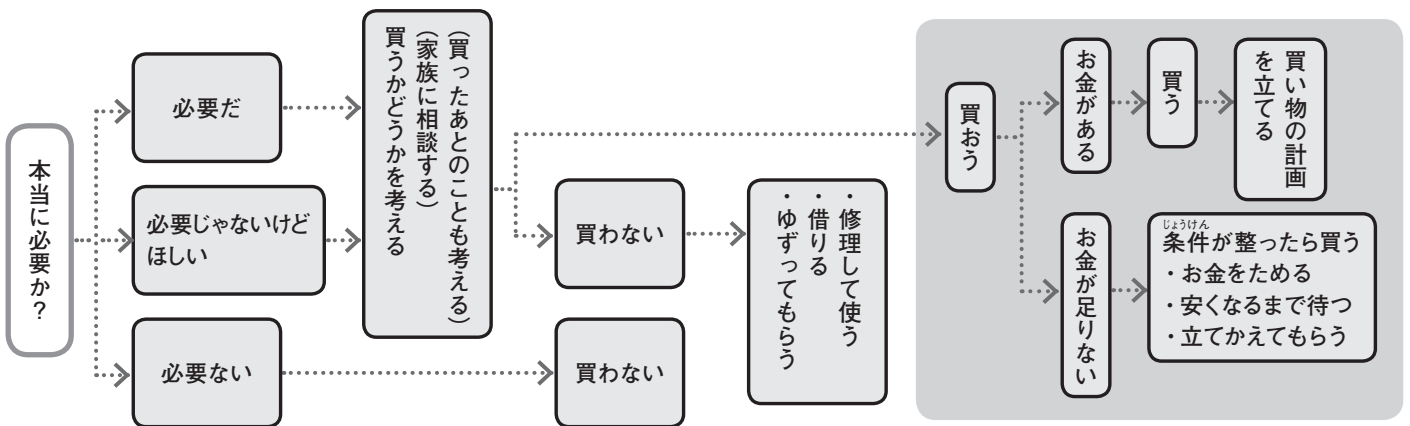
以上のことを踏まえ、児童の実生活に即した題材や課題を取り上げた「学習指導計画」が求められる。

### 4. 使用教材 (ワークシート), 題材・活動例

#### ●使用教材「かしこい消費者になろう! 買物エキスパートの道しるべ」

買物の際には「目的」と「必要性」を踏まえて家族と相談し、その上で「予算」を踏まえて計画を立てることが大切である。また、買物の際には現金等を使って購入し、その後使用してみて自分の買物が適切であったか振り返る必要があります。こうした「買物の流れ」を視覚的に捉えや

すくし、児童の意思判断を助ける教材として、フローチャート型のワークシートが効果的である。本題材を通して使用するほか、内容 A や内容 B と関連させて身近な食品や衣類等の購入方法を考える学習でも活用することができる。



#### ●題材・活動例「お店での買物を見直そう～『契約』って何?～」

買物の仕組みに関する新設事項として、主に現金による店頭での買物を例に買う人(消費者)の申し出と売る人の承諾によって売買契約が成立することを扱う。「契約」は児童にあまりなじみのない言葉であるため、口頭による説明だけでは想像しにくいと予想される。そのため、具体的な買物場面をロールプレイで演じさせることや、「契約」と「約束」の違いをクイズ形式で出題することで理解を促すことが有効だと考えられる。

<例1> ロールプレイでは、児童に「売り手」と「買い手」の役に分かれて演じさせ、「商品」と「金銭」と「レシート」がやり取りされることを確認する。契約とは「売り手」と「買い手」の双方の承諾により、金銭と商品(またはサービス)を交換することであり、消費者の一方的な理由では返品ができないことや、売買の証拠とし

てレシートを必ずもらうことも指導する。

<例2> クイズでは、児童の生活に即した身近な例を取り上げ、金額の大小に関わらず、金銭と商品の交換が契約になることを確認する。

#### 【「契約」と「約束」クイズの例】

- 友達と、明日の朝10時に集まって遊びに行くことを決めた。 →約束
- 友達とお菓子やへ行き、お小遣いで80円のチョコを買った。 →契約
- 親とよく相談して、自分用のパソコンを買ってもらうことにした。 →約束
- 親と一緒に電気屋に行き、お店の人の説明を聞いて新しいパソコンを買った。 →契約

# ～幼稚園との交流会をしよう～

A(4)

6 時間

教科書該当ページ p.8～24, 104～107 5年生 2学期 12月に学習

## 1. 学習の目標

- ・これまでの家庭科の学習を生かして、自分たちにできることを考え、相手に喜んでもらえる交流会を計画・実践しよう。
- ・交流会の活動を振り返り、自分の生活を見つめ直して、これからの生活に生かすための次の実践に生かせることを考えよう。
  - ・ゆでる調理でスイートポテトや手ぬいで簡単なフェルトの小物を作ることができる。 【知識・技能】
  - ・相手に喜んでもらえる交流会を、協力して計画・実践することができる。 【思考力・判断力・表現力】
  - ・自分の生活を見つめ直して、これからの生活に生かすための次の実践にできることを考える。【学びに向かう力・人間性】

## 2. 学習指導計画

	担当時間	学習活動	指導上の留意点	教材・教具例	資質・能力
課題設定 および 計画	2.5時間	1 今まで学習してできるようになったことを振り返る。 2 課題を設定し、自分たちにできることを考える。 3 交流会の計画を立てる。 4 手ぬいの学習を生かして布で簡単にできるプレゼントを製作する。	・自分たちが今まで獲得した家庭科の技能を使って何ができるか考えさせる。 針と糸を使って作るもの ゆでる調理を活用したもの ・自分たちで計画を立て役割を遂行する中で、友達や自分のよさや協力することの大切さに気付かせるようにする。	ワークシート  フェルトでできる小物	協力・協働（交流会の計画）
実践	2.5時間	1 ゆでる調理の学習を生かしてスイートポテトを作る。 2 交流会をする。	・今までの調理の経験を生かすように助言する。 ・安全や衛生に留意させる。 ・交流会では思いやりの気持ちをもって和やかに過ごせるようにする。	スイートポテト調理実習	協力・協働（交流会の進行） 健康・快適・安全（実習・おもてなし）
評価・改善	1時間	1 実践を振り返り、自分の生活で実践していきたいことを考える。	・この学習の成果が自分の家庭生活を見つめ、今後のよりよい生活につながるように考えるよう助言する。	ワークシート	